

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：37112

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26750014

研究課題名(和文)結婚活動支援における地域の仲人の役割

研究課題名(英文)The Role of Community Matchmakers in Marriage Hunting

研究代表者

田中 久美子(TANAKA, Kumiko)

福岡工業大学・社会環境学部・准教授

研究者番号：40508503

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本には結婚したいが、出会いがないと考えている未婚者が多く存在する。そこで、今後の結婚支援のあり方を考えるために、地域社会の中で暮らしたり、働いたりしながら配偶者候補を紹介する「地域の仲人」に注目した。かつて見合い結婚が多く行われていた頃の「仲人」の仕方をふまえながら現在の「仲人」に注目し、その具体的な技や知恵を、インタビュー調査を通じて明らかにしようとした。仲人をするということは、つながりをつくっていくことであり、それが男女の縁を結ぶことだけではなく、仲人自身の生活の充実にもつながっていた。

研究成果の概要(英文)：There are many unmarried persons who want to get married in Japan. They think that they don't have any opportunities to meet prospective marriage partners. Community matchmakers found marriage partners for them until the 1950s, therefore many people could meet marriage partners. This system is not popularly used as before, but previous studies and my field research show that the role of community matchmakers is still important.

The purpose of this study was to analyze the process and reasons they choose to become community matchmakers and how they match people today. Matchmakers need to make more connections with the result that not only they encourage unmarried persons to get married, but they also have opportunities to interact and socialize with each other.

研究分野：民俗学

キーワード：仲人 配偶者選択 見合い 結婚支援 未婚化 結婚活動

### 1. 研究開始当初の背景

日本では未婚化が進んでいるが、その理由は一生結婚するつもりがないと考えている人が多いからではなく、結婚したいけれども結婚できない、すなわち、理想的な相手にまだめぐり会っていないから結婚しないという理由であることが、特に山田昌弘らの研究によって周知されてきた(山田・白河 2008、山田 2010)。

それでは、どうすれば未婚者は結婚相手の候補者に会えるのだろうか。「出生動向基本調査」の夫妻が出会ったきっかけに関するデータを用いて初婚率の低下の要因を検討した岩澤美帆らは、1970年代以降の初婚率の低下は、ほぼ5割が「見合い結婚」、4割近くが「職縁結婚」の減少によっていることを示した(岩澤・三田 2005)。このように1950年頃までは、「仲人」たちが世話する見合いによって、多くの人が出会い、結婚してきた。地域社会の中に生活や生業の基盤があった頃には、そこに縁談の世話をする人々があり、その後、人々が多くの時間を過ごす仕事の場が企業に移ってからは、そこが結婚相手と出会う場となり、上司が結婚相手を紹介することもあった。このように生活の身近な場にいる人たちが、未婚者の結婚相手を紹介する役割を担ってきたのである。

現在では「仲人」は数としては少なくなったが、今でも結婚相手の候補者を紹介したり、消極的な人の背中を押したりしている。先行研究からも、出会いがないと考えている人たちにとって、身近にいて出会いをもたらしてくれる「仲人」の存在は重要であると思われた。そこで、「仲人」がどのような人たちによって担われてきて、どのようにして男女の縁を結んできたのかを明らかにすることは、これからの結婚活動のあり方を検討する上で、有効な視点を得ることができると考えるに至った。

「仲人」は、大きく二つに分けられる。一つは結婚相手を探す男女に見合いをさせるなど、縁談を成立させようとする人々である。もう一つは「すわり仲人」、「頼まれ仲人」と呼ばれるような、すみ酒や結納、結婚式など儀礼的な場面において結婚に関わる人たちであるが、近年の結婚では立てることが少なくなっている。本研究で対象とするのは、前者の「仲人」である。

### 2. 研究の目的

「地域の仲人」は結婚活動に消極的な人も世話し、人を見定め、結婚までの過程を見守り、さらには結婚後の夫婦を庇護する役割を担ってきた。そこで、本研究ではかつて見合い結婚が多く行われてきた頃の「仲人」の仕方をふまえながら、現在の「仲人」に注目し、その具体的な技や知恵を明らかにしようとした。特に研究にあたって次の二点を重視した。一点目は、「仲人」が自身の結婚生活を含めてどのような人生を歩んできて、それが

「仲人」になることや、縁の結び方、結婚に対する考え方などと、どのように関わっているかである。そして二点目は、現代社会において、結婚相手を見つけることを困難にしていることはどのようなものであり、それを「仲人」はどのように乗り越えようとしているのかである。

### 3. 研究の方法

本研究は、家族研究等の蓄積をふまえながら、「仲人」に対するインタビュー調査を中心として行われた。まず、九州地方北部に位置するA市を中心的なフィールドとして設定し、「仲人」経験がある人に対して、インタビュー調査を行った。研究の当初は、結婚仲人業、いわゆるビジネスとして「仲人」をしている人ではなく、日常生活の中で身近な人に声がけしたり、頼まれたりして縁談の世話をしている人にインタビュー調査を行った。

一方、結婚する人を増やすことを少子化対策の課題として考えた時に、住民を「仲人」として活用することが近年いくつかの自治体で行われている。そこで、結婚支援制度の中で「仲人」を取り入れている自治体に赴き、担当職員や「仲人」を行っている人々にインタビュー調査を行い、考察を深めることとした。

### 4. 研究成果

#### (1) どのような人が「仲人」をしてきたのか

「仲人」というと特別な存在にみられがちだが、かつて見合い結婚が多く行われていた頃は、世話好きの近所の人や、親戚といった普通の人たちが「仲人」の役割を果たし、縁談を持ってきた。すなわち、誰もが男女の縁を結ぶ側にまわる可能性があった。その中でも、特定の職業についているからこそ、それを熱心に行っていた人たちもいる。農村ではたくさんの農家をまわっていた農協職員がよく農家から息子の結婚相手の世話を頼まれていたし、大学の研究室の中では、指導教授が学生の研究指導や就職の世話だけではなく、自分の妻と協力して、学生たちの結婚相手の世話までするなど、学生の一生の面倒をみることもあった。

現在、結婚仲人業としてではなく「仲人」をしている人たちには、仕事上、人と接する機会があり、地域の中でも顔が広いという特徴がある。呉服・紳士服の仕立てといった得意先を持っている人や、地域に根付いて名が知られた経営者、食堂やカフェの経営者といった、人が集まり、店員と客が雑談を交わすような場所を持っている人である。イベントや事業との関わりでいえば、縁結びに関わる神社の神職や、自治体の結婚支援事業に関わる部署の職員の中にも、求められている仕事以上に、精力的に男女の紹介をしている人がいた。とりわけ近年では、自治体の結婚支援事業の中で、ボランティアとして「仲人」を活用する例があり、住民の中には

それに登録して「仲人」を始める人もいる。一方で、～のように、仕事との関わりで「仲人」をする人もいるが、本業を持ちながら、本業とは関係なく趣味で男女の紹介を行っている人もいる。

「仲人」を始めたきっかけは、大きく三つの機会に分けられた。一つ目は、「仲人」をしようと思っていたわけではなかったが、たまたま人から頼まれたことがきっかけとなり、それ以来、紹介しているというものである。二つ目は、結婚したことをきっかけに、他の人の世話をしたいと考え始めることである。そうした気持ちは、自身の結婚生活の充実から湧き起こったものである。三つ目は、自分の子どもが結婚を考える年齢に達したことが、「仲人」をするに関心を持つ一つの大きなきっかけとなっていた。「仲人」は年配者が行う印象があるが、以上のようなきっかけであることから、早い人は20代から、友人を中心に紹介を始めていた。

## (2) 縁を取り結ぶ困難と対応

「仲人」によって語られたのは、縁を取り結ぶのは難しいということだった。

かつて見合いが多く行われていた頃に見合い結婚をした人たちは、親や親戚らに勧められるがままに結婚していた。特に女性は、意見は一応聞かれたが、決定権が自分にはなかったことを語っていた。このようかつては自分の意思で結婚相手を選ぶことはできなかったが、「仲人」から紹介された相手であり、親が相手の家等の情報を持っているという安心感はあったという。

「地域の仲人」は知り合いから紹介を依頼されることがよくある。その際、よく知らない人から紹介を依頼されても、どのような人か分からないので紹介するには不安があるため、引き受けないという人もいる。このことから、「仲人」という当事者もしくはその親を知る、身近な知り合いに紹介を頼むことによって、結婚相手の候補者を見つけることが容易になると思われたが、必ずしもそうではなかった。むしろ知り合いであるからこそ、「仲人」は依頼者が希望する条件に合うような人を紹介しなければならない。その結果、「仲人」の中には、本人が本気で結婚相手を探しているかどうかも含めて、「仲人」自身もつ基準で見定めた上で、引き合わせている人もいた。逆によく知らない人に対しても、自身の勘や経験をもとに紹介していこうとする人もいた。

しかし、「仲人」が条件を検討した上で、合うと思って紹介したとしても、まとめることは難しいと語られた。現在の見合いでは、当事者同士の意思が尊重されるからである。まず、紹介して引き合わせても、その後が続かず、それは男性側の消極性として語られた。次に、女性の側が断ることが多いと言う人もおり、それは、年収や年齢といった条件面だけの問題ではなく、印象的な部分が女性の希

望と合わないことがあげられた。

それでは、こうした困難を少しでも解消するために、「仲人」たちはどうしているのだろうか。「仲人」一人が頼まれて引き受ける依頼者の数は少ない。そうなると、自身が持ち合わせている人の中で合わせることができる人は限られてしまい、見合いの設定すらできないことになる。そこで、「仲人」たちはネットワークを築いていた。「仲人」をしている人の情報は口コミで広がるだけではなく、偶然知り合うことも狭い町の中では起こった。そして、「仲人」同士で信頼関係が築けそうであれば、互いの持っている情報を交換しあうことになる。こうして知り合った「仲人」たちは、仲人同士で会った時に、情報交換、意見交換をして見合いをさせていた。「仲人」を始めたことにより、人間関係の輪が広がり、それが本業の充実につながったという人もいる。

「仲人」は、男女の間に入って連絡調整をしたり、相談に乗ったりしていた。それをするには手間がかかるだけではなく、出費も多くある。それに、紹介してうまくいかない時には、相手に謝ったり慰めたりと精神的な負担もある。それでも、人々が「仲人」を続けているのは、「人好き」「趣味で」という気持ちが共通のものとしてあった。中には、よく縁談をまとめる人がいる。そうした人の特徴として見られたのは、人とのつながりをつくることから心がけていること、そして正直であることだった。

## 引用文献

- 岩澤美帆・三田房美 2005 「職縁結婚の盛衰と未婚化の進展」『日本労働研究雑誌』535  
山田昌弘 2010 「『婚活』現象の裏側」『婚活』現象の社会学』東洋経済新報社  
山田昌弘・白河桃子 2008 『『婚活』時代』ディスカヴァー・トゥエンティワン

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

田中 久美子、「結婚を希望する独身者と仲人はどのようにしてつながるのか」、日本民俗学会第68回年会、2016年10月2日、千葉商科大学(千葉県市川市)

田中 久美子、「配偶者選択における仲人の経験」、日本民俗学会第66回年会、2014年10月12日、岩手県立大学滝沢キャンパス(岩手県滝沢市)

〔図書〕(計1件)

田中 久美子、「男女の縁をとりもつ人々」

福岡市史編集委員会編、『新修 福岡市史  
民俗編二 ひとと人々』、福岡市、(分担執筆  
pp.803-819)、2015年

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田中 久美子 (TANAKA, Kumiko)  
福岡工業大学・社会環境学部・准教授  
研究者番号：40508503

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

( )